

分野:総合病態診療学

主科目 副科目	リハビリテーション医学 Rehabilitation medicine	DM_1503	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	--	---------	----	------	------	-----------------

担当	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
板橋	◎緒方 直史	中原 康雄		本田 祐士	伊佐地 隆 (非常勤講師) 大西 康史 (非常勤講師) 原 元彦 (非常勤講師)
ちば	◎田中 尚文				
-					

	リハビリテーション医学Ⅰ (1年次)				リハビリテーション医学Ⅱ (2年次)				リハビリテーション医学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概要	<p>全ての臨床各科が関わるリハビリテーション適応症例について、正確な問診、理学所見、検査の情報を収集し、適切な診断のもと、総合的評価を行えるように指導する。特に機能予後や回復目標を設定できるようにし、治療計画も立案できるように実習中心に指導する。</p> <p>また臨床症例検討会にて実際にリハビリ処方をした患者について、問題点の整理、ゴール設定、治療計画について述べ、演習を行う。実習として、主に臨床神経生理検査についてその手法や評価法の習得を目指す。特に表面・針筋電図の計測法ならびにその読影法について実習を毎週水・木曜日に行う。</p>				<p>全ての臨床各科が関わるリハビリテーション適応症例について、正確な問診、理学所見、検査の情報を収集し、適切な診断のもと、総合的評価を行えるように指導する。ボツリヌス毒素外来にてボツリヌス毒素治療について講義・実習を行う。</p> <p>また、高次脳機能障害評価について、症例に応じてその評価法ならびに訓練法について学習し、高次脳機能障害について理解する。各種リハビリテーション対象疾患の急性期、回復期、生活期それぞれの時期におけるリハビリテーションの実際を経験し理解するために、各関連施設にて実習を行う。</p>				<p>義肢装具外来、車いすなどの処方と適合判定について学習する。リハビリテーションカンファレンスを経験し、チーム医療について学び、積極的に意見を述べられるようにし、カンファレンスを主導できるようにする。</p> <p>リハビリテーションカンファレンスは毎週開催し、出席する。夏期には多施設により開催されるリハビリテーションセミナーにも参加し、多施設間での連合カンファレンスにも精通するようする。高次脳機能障害評価についても、引き続き実習を通して評価・診断法について学習する。</p>			
到達目標	<p>① すべての臨床各科が関わるリハビリテーション適応症例に対して、正確な問診、理学所見、検査の情報を収集し、適切な総合的評価をしたうえで、機能予後や回復目標を設定し、治療計画を立案することができる。</p> <p>② リハビリテーション関係職種を理解し、治療計画の中でリハビリテーション処方を作成し、患者に関係する者で構成されるチームでの治療におけるリーダー的役割を果たすことができる。</p>				<p>① リハビリテーションに必要な各種機能・能力・参加障害の評価法のうち標準的なものについて理解し、自ら実施できるようになる。</p> <p>② 障害ある人がもつ基礎的内科的疾患、運動器疾患の治療管理と、障害があることに起因する二次的障害の軽減(例:痙縮に対するボツリヌス毒素治療)などの維持的管理ができるようになる。</p> <p>③ 疾患や障害をもった身体状況で、運動や動作負荷を行うときのリスク管理、禁忌、中止基準、緊急時の対応ができる。</p>				<p>① 義肢・装具、自助具、車いす、座位保持装置の適切な処方と適合判定ができる。</p> <p>② 障害者総合福祉法、介護保険法、各種年金(保険)法などの社会制度を理解し、有効利用できるような診断書・意見書作成等の手続きができ、制度を活用した活動的な生活の再設計に主体的に関わる能力を研鑽する。</p> <p>③ リハビリテーション医学に関するテーマについて発表する。</p>			
事前事後学修	<p>リハビリテーション医学の教科書、評価法について関連書籍を事前に読んでおくこと。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>				<p>今回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>				<p>今回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>			
評価方法	<p>出席状況 20% 受講姿勢 30% カンファレンス等での発言状況 30% 診療技術 20%</p>				<p>出席状況 20% 受講姿勢 30% カンファレンス等での発言状況 30% 診療技術 20%</p>				<p>出席状況 20% 受講姿勢 30% カンファレンス等での発言状況 30% 診療技術 20%</p>			

■主な演習(講義・実習含む)

	リハビリテーション医学Ⅰ (1年次)	リハビリテーション医学Ⅱ (2年次)	リハビリテーション医学Ⅲ (3年次)
板橋	水 曜日 17 : 00 ~ 19 : 00 講義(別途指示)	水 曜日 17 : 00 ~ 19 : 00 講義(別途指示)	水 曜日 17 : 00 ~ 19 : 00 講義(別途指示)
	水 曜日 9 : 00 ~ 11 : 00 臨床神経生理検査	金 曜日 13 : 30 ~ 15 : 00 ボツリヌス毒素外来	木 曜日 9 : 00 ~ 12 : 00 義肢・装具、車いす等の処方と適合判定
	月 曜日 13 : 30 ~ 15 : 00 臨床症例検討会	月 曜日 13 : 30 ~ 15 : 00 臨床症例検討会	月 曜日 13 : 30 ~ 15 : 00 臨床症例検討会
	水 曜日 17 : 30 ~ 19 : 00 リハビリテーション医学各論1	水 曜日 17 : 30 ~ 19 : 00 リハビリテーション医学各論2	水 曜日 17 : 30 ~ 19 : 00 リハビリテーション医学各論3
ちば	木 曜日 9 : 00 ~ 12 : 00 神経伝導検査・針筋電図検査	木 曜日 9 : 00 ~ 12 : 00 神経伝導検査・針筋電図検査	木 曜日 9 : 00 ~ 12 : 00 神経伝導検査・針筋電図検査
	火 曜日 16 : 00 ~ 17 : 30 症例検討会	火 曜日 16 : 00 ~ 17 : 30 症例検討会	火 曜日 16 : 00 ~ 17 : 30 症例検討会
	曜日 : ~ : 曜日 : ~ : 曜日 : ~ :	曜日 : ~ : 曜日 : ~ : 曜日 : ~ :	曜日 : ~ : 曜日 : ~ : 曜日 : ~ :

教科書・参考書

リハビリテーション医学・医療コアテキスト(医学書院)
評価法について関連書籍(リハビリテーションにおける評価Ver.2 医歯薬出版、リハビリテーション評価データブック 医学書院 道免和久編など)

その他履修上の注意事項

- ① 日常外来診療の各種リハビリテーション適応症例を通じて実際に評価し、障害を考察し、機能予後を考え、処方し、治療技術を学習する。
 - ② 臨床症例検討会において自ら関与した症例の提示をし、問題点の整理、ゴール設定、治療計画について述べる。
 - ③ 主として第2学年で、関連施設で実習を行い、各種リハビリテーション対象疾患の急性期、回復期、維持期それぞれの時期におけるリハビリテーションを経験し、それらの特徴を理解する。
 - ④ リハビリテーション・カンファランスを経験し、チーム医療について学び、カンファランスを主導できるようにする。
- 講義・演習・実習の詳細については個別に案内します。
試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを適宜文献を調べながら行う。
この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	神経学、脳神経外科学、循環器内科学、運動器再建・再生学、放射線診断学・放射線腫瘍学、精神神経科学、緩和医療学、地域医療学など関連領域を1科目以上、3ヵ月コースまたは講義・演習コースを履修する。
	共通科目	

関連する専門医資格

日本リハビリテーション医学会専門医:医師免許取得後5年以上、日本リハビリテーション医学会加入後3年以上経過、専攻医として3年以上のリハビリテーション医学研修、資格審査の後に、日本リハビリテーション医学会の主催する専門医試験を受験する。

キャリアパス(モデルコース)

